

オーケストラ公開授業（2017年前期）について

尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科では、本年度も「オーケストラ」授業の一部を一般公開いたします。

プロフェッショナル・オーケストラでは、公演日に向けて事前に2~3回のリハーサルを経て公演本番を迎える、というのが通常のサイクルとなっております。昨年度までは、公開授業の当日を公演本番日と想定し、いわゆる「完成型」のみを公開して参りましたが、本年度前期ではプロフェッショナル・オーケストラの公演サイクルを模し、7月15日（土）を公演本番日と想定して、そこに至るまでのリハーサルの一部も公開させていただくことにいたしました。

リハーサルでは、ただ曲を通すだけでなく、時には演奏を止めて表現方法を示したり、演奏の最中も声を張り上げてプレイヤーに指示を飛ばしたりということもあります。そのような“生々しい”現場をご観いただくことで、私たちが取り組んでいる音楽作りにおいてどのようなことを日々大切にしているのかを感じとっていただければ幸いです。また、リハーサルをご見学いただいたうえで、最終的にどのような仕上がりになるのかを目の当たりにしていただければ、作品そのものへの理解も深まることと思います。

本年度前期では、ベートーヴェン『交響曲 第7番』、ドヴォルジャーク『交響曲 第8番』、ラフマニノフ『交響曲 第2番』の3曲を課題演目といたしました。いずれの曲も、演奏会でメインの演目となるような大曲ですが、古典期から近代に至るまでの音楽様式の変遷や、それらを的確に表現するために必要な“歌いまわし”や奏法の違いについてを学習することにも、この3曲を同時に取り組む狙いがあります。聴衆の皆様もそのような視点でご観覧いただければ、クラシック音楽の面白さにますますお気づきになることでしょう。

■ 指導・指揮 河合 尚市（尚美学園大学 音楽表現学科 教授）



東京芸術大学卒業後、これまでに、劇団四季ミュージカル『オペラ座の怪人』（日本初演を含む161公演）、同『ウエストサイド物語』（70公演）、東京混声合唱団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラアンサンブル金沢、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティーフィルハーモニック管弦楽団、東京ニューシティー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、日本センチュリー交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、中国広瀋電影楽団、中国EOS交響文献楽団、上海放送交響楽団、東京吹奏楽団、新ヴィヴァルディ合奏団、日本音楽集団の各公演を指揮。また、日本屈指のバレエ指揮者として日本バレエ協会、松山バレエ団、谷桃子バレエ団等、日本を代表するバレエカンパニーの公演を指揮。（財）松山バレエ団指揮者、（財）国際親善協会ジャパンウィーク合唱フェスティバル音楽監督、尚美学園大学および同大学院にて教授を務める。



■ 管弦楽：尚美学園大学オーケストラ

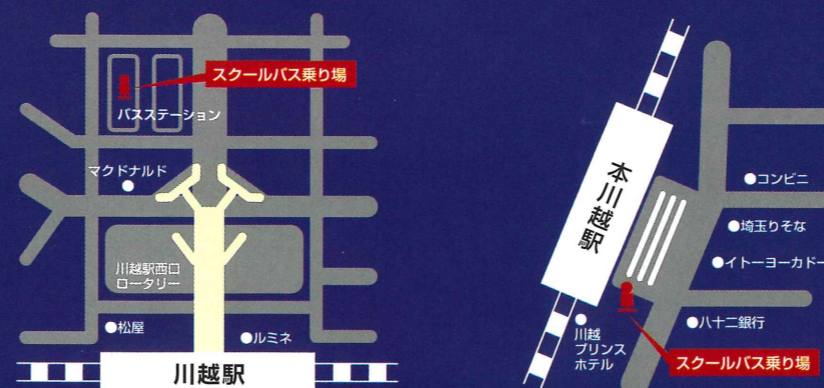
尚美学園大学オーケストラは、芸術情報学部音楽表現学科管弦打楽器コース在籍学生とオーケストラ演奏員で構成されている。学科定期演奏会、年6回実施される公開授業、クラシックバレエのピット試演会、近隣小学生の為の音楽鑑賞教室など、学内パストラルホールをメイン会場として、大学と地域を結ぶ重要な活動を行っている。また、学外からの依頼演奏も積極的に受け入れ、中でも2012年4月、日本を代表する谷桃子バレエ団「ジゼル」全幕公演のオーケストラ演奏で新国立劇場デビューを果たし、バレエ界からも高い評価を得たことは、特筆すべき活動である。

<i>Flute & Piccolo</i> 伊藤 咲希 柳橋 萌恵 長谷川 菜津美 山本 沙也加 工藤 美優 平山 結女香	<i>Horn</i> 青木 そら 金子 陸 宮崎 里咲 倉津 光希 元木 智子	<i>Tuba</i> 椎林 京平 木島 陽子	山口 嘉奈子 小嶋 佳奈 山本 有莉 上島 育
<i>Oboe & English Horn</i> 翁 芽衣美 神島 竜司 鹿又 寒太郎	<i>Trumpet</i> 阿部 奈都美 安和 菜 櫻井 美咲 田畑 隼平 町田 羽純 南 知花 山川 永太郎 渡部 樹 近藤 峻 藤崎 愛美 渡邊 友樹	<i>Percussion</i> 伊藤 優華 高橋 昇三 原田 美沙子 大澤 頌子 柳谷 成美	<i>Viola</i> 松井 啓子 伊藤 美香 太田 史子 倉嶋 能子
<i>Clarinet</i> 大槻 葵 河田 志保 川端 百合香 長谷川 董	<i>1st Violin</i> 久保 琴美 布施 真帆 海保 あけみ 岡田 文子 神野 桂子 松田 彩 袴田 朋美 小野田 輝紀	<i>2nd Violin</i> 大野 彩香 上地 芙美 河合 真理	<i>Violoncello</i> 武田 晟慶 梅田 朋美 斎藤 章一 牧野 ルル子 畑江 寿利 山形 まどか
<i>Fagotto</i> 並木 碧 湯本 真知子 高島 彩	<i>Trombone</i> 野口 朋音 滑川 拳司 矢都木 悠河 松尾 優衣	<i>Contrabass</i> 森山 聖羅 緒方 直子 宮部 宏美 平岡 生郎	

◎交通のご案内

お車でお越しの際はキャンパス内の駐車場（無料）にお停めいただけます。
電車でお越しの際はJR・東武線（川越駅）西口または西武線（本川越駅）より、無料のスクールバスをご利用いただけます。なお、スクールバスの運行時刻はシーズンによって改訂されますので、最新の時刻表を尚美学園大学ホームページにてご確認ください。

〈スクールバス乗り場のご案内〉



◎その他のコンサート情報

- 2017年5月23日（火）…成績優秀者によるマンスリー・コンサート①
- 2017年5月29日（月）…成績優秀者によるマンスリー・コンサート②
- 2017年5月30日（火）…成績優秀者によるマンスリー・コンサート③
- 2017年7月17日（月・祝）…大学院成績優秀者によるコンチェルト演奏会

◎2017年度後期公開授業予定

- 2017年10月12日（木）
- 2017年11月23日（木・祝）
- 2018年1月18日（木）

◎お問い合わせ先

尚美学園大学学生課（担当：小泉）
k-koizumi@s.shobi-u.ac.jp
tel:049-246-2127

尚美学園大学 芸術情報学部
音楽表現学科

オーケストラ公開授業

2017年度 前期

日程

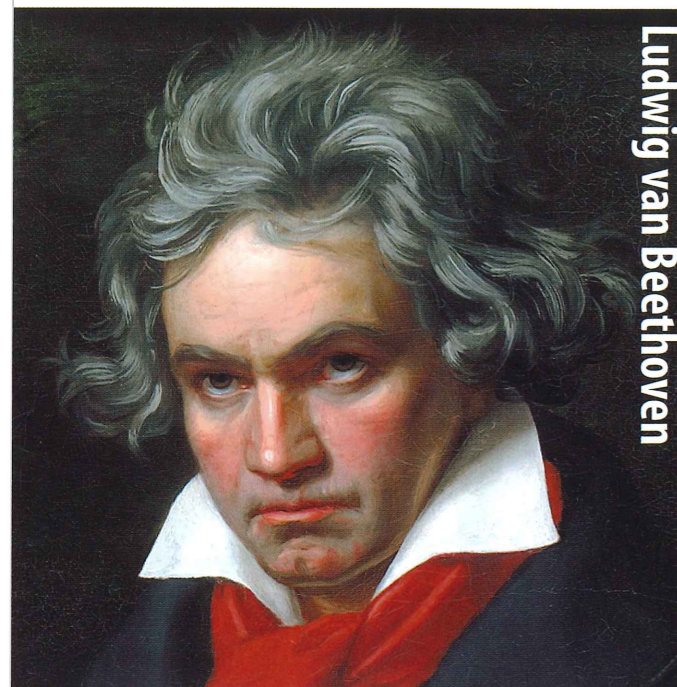
- 2017年5月18日（木）13:00~16:10
- 2017年6月22日（木）13:00~16:10
- 2017年7月27日（木）13:15~16:00

※各日とも12:45より開場

※上記時間帯の中でご自由にご観覧いただけます（途中出入り可）

会場

尚美学園大学パストラルホール



Ludwig van Beethoven

Symphony

No. 7

ベートーヴェン
交響曲 第7番 イ長調 作品92

ベートーヴェンが残した9曲の交響曲のうち、第3番「英雄」、第5番「運命」、第6番「田園」、第9番「合唱付」は副題が付されて特に親しまれていますが、この交響曲第7番も、副題こそありませんがベートーヴェンの代表作として広く支持され、現在でも演奏される機会が特に多い作品です。リズムカルで、活力にあふれた雰囲気があり、「ノリの良さ」という点ではベートーヴェンの交響曲のみならず、あらゆる交響曲の中でも一番と言って良いくらい、楽しい部分の多い曲です。

この曲はベートーヴェン42歳の1812年に完成し、初演は1813年12月8日、ウィーンにてベートーヴェン自身の指揮で行われました。初演は好評で、その4日後の12月12日、3週間後の1月2日、そして2月27日にアンコール公演が行われたといわれています。このように、初演当時から現在に至るまで200年以上人気を保ち続けているという、類い稀な傑作です。

2017年5月18日(木)

～公開リハーサル①～

13:00～13:58

第Ⅲ楽章

第Ⅳ楽章

鑑賞ポイント

- 第Ⅰ楽章… 堂々とした序奏の後に開幕する軽快な音楽。以降、終始続く「タッカタン、タッカタン」のリズムを追いかけながら、移り変わるシーンをお楽しみください。
- 第Ⅱ楽章… この曲の中では唯一叙情的で短調の楽章。「ターンタタ、ターン、ターン」という重々しいリズムが支配する中で、次々と美しい旋律が登場します。
- 第Ⅲ楽章… 速い3拍子のリズムが続く中、ユーモアを感じさせるような旋律が登場します。中間部ではクラリネットなどによる民謡風なメロディが聴き所です。
- 第Ⅳ楽章… スピード感のある熱狂的な雰囲気を展開されます。すべてのクラシック音楽の中でも最もエキサイティングな楽章の一つでしょう。

2017年6月22日(木)

～公開リハーサル②～

15:12～16:10

第Ⅰ楽章

第Ⅱ楽章

2017年7月27日(木)

～演奏会形式公開授業～

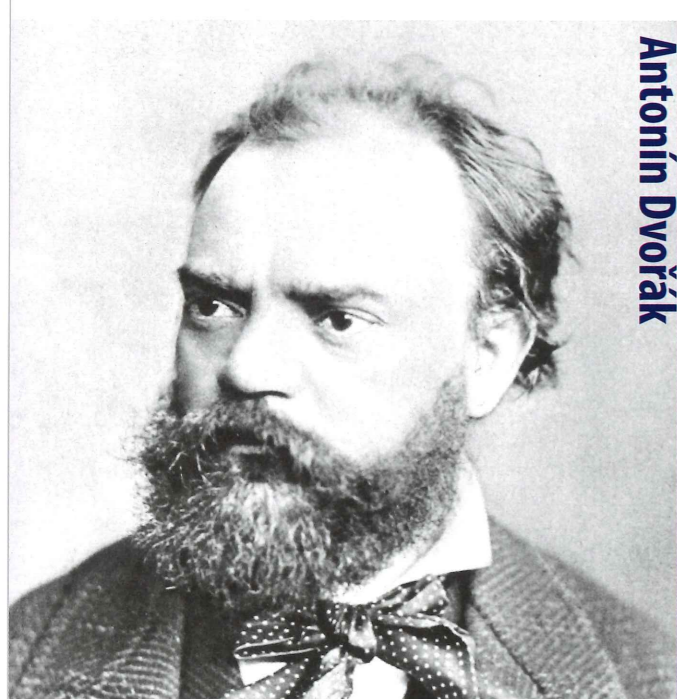
13:15～13:55

第Ⅰ楽章

第Ⅱ楽章

第Ⅲ楽章

第Ⅳ楽章



Antonín Dvořák

Symphony

No. 8

ドヴォルジャーク
交響曲 第8番 ト長調 作品88

チェコ出身のドヴォルジャークも、ベートーヴェンと同じく9つの交響曲を残しました。知名度においては第9番「新世界より」には及ばないかもしれませんが、ドヴォルジャークの交響曲の中で、第9番に次いでひろく知られている交響曲です。

第7番以前の交響曲にはブラームス(ドイツ)の影響が色濃く、また第9番ではアメリカ滞在時代に触れた音楽から大きく影響を受けたとされる一方、この第8番は民族音楽的な性格を併せ持っており、「チェコの作曲家」としての誇りが感じられる、大変親しみやすい作品です。

また、この曲はドイツの出版社ジムロック社とのトラブルの後に、イギリスのノヴェロ社から出版された経緯から「イギリス交響曲」とも呼ばれていましたが、音楽の内容はイギリスとは関連がなく、ボヘミアのローカル色が豊かで、のどかで明るい田園的な印象が特徴的です。

14:06～15:04

第Ⅰ楽章

第Ⅱ楽章

14:05～14:45

第Ⅰ楽章

第Ⅱ楽章

第Ⅲ楽章

第Ⅳ楽章

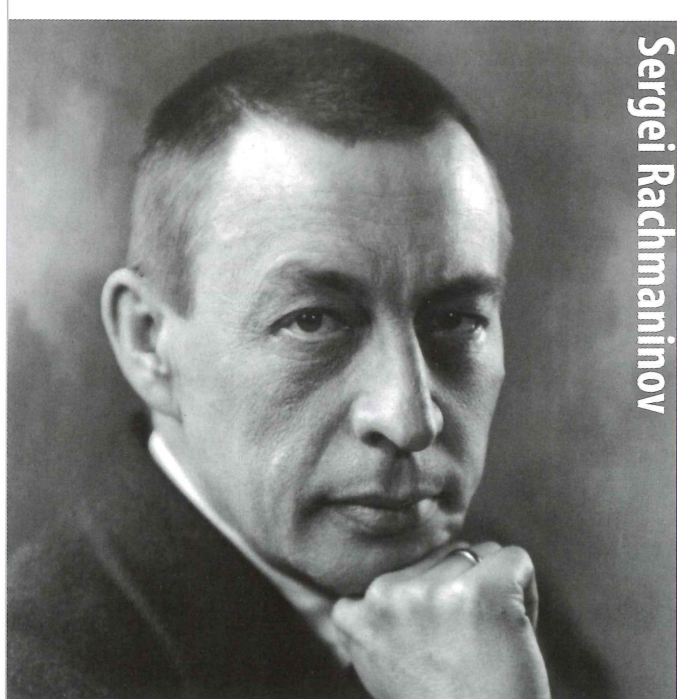
15:12～16:10

第Ⅲ楽章

第Ⅳ楽章

鑑賞ポイント

- 第Ⅰ楽章… 哀愁に満ちた美しいメロディ、フルードによる小鳥のさえずり、金管群の雄大なハーモニー、次々と変わる情景が浮かぶようで、聴き手を飽きさせません。
- 第Ⅱ楽章… どこか田舎の風景を思わせるような、のどかな雰囲気が続きます。その雰囲気を打ち破るように現れる派手なシーンは何を表しているのでしょうか…。
- 第Ⅲ楽章… スラヴ舞曲風のメランコリックなメロディは、物哀しくも美しく、とても魅力的です。中間部の明るい雰囲気との対比もまた聴き所です。
- 第Ⅳ楽章… 序奏の後、チェロによって示される主題が形を変えながら変奏されていきます。その数なんと18種類！いくつかの変奏を聴き分けられるでしょうか…？



Sergei Rachmaninov

Symphony

No. 2

ラフマニノフ
交響曲 第2番 ホ短調 作品27

出世作となった『ピアノ協奏曲第2番』(1900年初演)の大成功、妻ナターリヤとの結婚、2人の子供を授かるなど、公私ともに充実した日々を過ごしていた時期、1904年から翌年にかけてラフマニノフはボリショイ劇場の指揮者の職にありました。しかし彼は一方で「自分は第一に作曲家である」との自覚から、指揮活動に作曲の時間が奪われているとも感じていました。そこでより作曲に専念できるように、1906年に妻と幼い娘を連れてドレスデンに移り3年間を過ごしました。『交響曲第2番』はこの時期、1906年10月から1907年4月にかけて、ドレスデンと、夏の間だけ過ごした妻の実家の別荘地イワノフカで作曲されました。初稿にはひどく不満足であったものの、数ヶ月の改作を経てこの作品を仕上げると1908年1月26日にサンクトペテルブルクにて自身の指揮で初演を行いました。初演は大成功を収め、二度目のグリンカ賞を受賞することになりました。

14:06～15:04

第Ⅰ楽章

第Ⅱ楽章

14:55～16:00

第Ⅰ楽章

第Ⅱ楽章

13:00～13:58

第Ⅲ楽章

第Ⅳ楽章

第Ⅲ楽章

第Ⅳ楽章

鑑賞ポイント

- 第Ⅰ楽章… この楽章のみで、大スペクタクル映画を観たような気分になれることでしょう。様々な登場人物、起伏とストーリー性に富んだ音楽絵巻をご堪能ください。
- 第Ⅱ楽章… 激しくかつ威勢のいいスケルツォ。リズムカルで緊迫した主題と情感豊かな別の旋律が対比的に現れ、自然の様々な情景を感じさせます。
- 第Ⅲ楽章… ラフマニノフの作品の中でも特に有名なこの楽章。甘美なメロディ、狂おしいまでに美しいハーモニーに身を委ね、ぜひその世界にどっぷり浸ってください。
- 第Ⅳ楽章… これまで第Ⅰ～Ⅲ楽章で登場した音楽が形を変えながら走馬灯のように再現されていきます。緊迫した雰囲気が一気呵成に駆け抜けます。